

隠された琵琶の音色、妙音沢

「せせらぎ」という言葉の響きは、なんと美しいものだろう。それは漢字で『細流』と書くように、ささやかに流れる川や水の音を意味するだけでなく、きらきら光る水面や、周りを取り囲む動植物、美しい風景まで見えてくるような気がしてくる。日本人好みの風流な言葉だ。都会で暮らしているとそういえば、ずいぶん「せせらぎ」を感じることは少ない。川があるにしても、濁っていたり、淀んでいたりと、立ち止まって見る事すら無くなってしまった。しかし、新座市を歩くとまるで、琵琶の楽器の音色のような美しいせせらぎに出会うことができる。

朝霞台駅から黒目川方面へのバスに乗り数分、埼玉県立新座高校の近くに、妙音沢はある。繁華街からそう遠くはない雑木林の中に、普段の喧騒を忘れさせてくれるような美しい水の流れに出会えた。ここ妙音沢は環境省が選定する「平成の名水百選」にも選ばれており、プラナリア、サワガニ、ヘビトンボなどというきれいな水にしか生息しない生き物たちも好んで住処にするほどだ。また、なんととってもその流水の音色は見事で、多くの地域住民や観光客が魅了されてきた。忘れかけていた安らぎを、自然の豊かさを、そのせせらぎが私たちに語り掛ける。

妙音沢には、こんな伝説が残る。信仰深い盲目の琵琶法師が、この場所で弁財天から琵琶の秘曲を授かった。この伝説から「妙音沢」という名が付けられたそうだが、なるほど、その名にふさわしく奥ゆかしくて風靡なせせらぎが私たちの心を癒してくれる。一歩足を踏み入れるとまるで、法師の琵琶の音色が私たちを迎え入れてくれているような気がする。

この美しい沢を守るために、地域の人々はその保全活動を積極的に行ってきた。希少な動植物のパトロールや水生生物の調査、下草刈り運動や不法投棄物の撤去運動など、こうした入念な手入れがあつてこそ、琵琶の音色は何年も変わることなく、私たちを魅了し続ける。木道も整備され歩きやすくなっているので、沢のせせらぎを聞きながら散歩をしたり、木漏れ日を感じながら深呼吸をするのもいい。是非、新座市を訪れたらこの妙音沢に出向いてみてほしい。

低俗な僧と言われる琵琶法師は、世の常を憂い、生きる意味を問うた。しかし、ふと訪れたこの場所で、きっと、かの法師も直接見ることのできないこの名水のせせらぎに、酔いしれたに違いない。そしてその琵琶の美しい音色はきっと、これからもここを訪れた人々の心に響き続ける事だろう。